

環境影響評価集計表

環境影響に関する研究一覧

(対象年度：平成29年度 調査実施年度：平成30年度)

部局	No.	著書名／論文／発表題目等	氏名	研究の概要
人文学部	1	環境志向性尺度の作成. 日本心理学会第81回大会, 久留米シティプラザ	岡本卓也	自己を取り巻く環境に対し, どのような志向性を測定する尺度を作成した。分析の結果, 9因子から構成されることを確認した。
	2	Place identity and environmental orientation. The 15th European Congress of Psychology, AMSTERDAM RAI CONFERENCE CENTRE.	OKAMOTO, Takuya	環境志向性の違いが, Place Identity・Place Attachmentに与える影響について検討した。
	3	論文「自治体原子力行政の「自治」を問う」(『科学』87(4):383-387、岩波書店)	茅野恒秀	原子力関連施設が立地する地方公共団体の原子力関係部局の人事制度の分析を出発点に、安全規制行政における政府との関係を考察した。
	4	学会発表「現代信州の環境問題」(6月4日、第55回環境社会学会大会、信州大学)	茅野恒秀	メガソーラー、リニア鉄道新幹線、廃棄物最終処分場建設など、長野県における環境問題の現状について報告した。
	5	学会発表「Japan's Chaotic Nuclear Waste Mismanagement after Fukushima」(9月1日、21st REFORM Group Meeting, at Hotel Schloss Leopoldskron, Salzburg)	茅野恒秀	福島原発事故後の環境汚染と放射性廃棄物政策の現状について、国際会議で報告した。
	6	論文「二重基準が跋扈する原発事故の放射性廃棄物政策」(『都市問題』109(3):46-50、東京市政調査会)	茅野恒秀	福島原発事故後の環境汚染と放射性廃棄物政策の現状について、とくに放射性物質汚染対処特措法の問題点を考察した。
全学教育機構	1	"Reconsideration of Spirituality in Japanese Culture: From a Practice of a Nursery School Based on Waldorf and Forest Pedagogy"(9th World Environmental Education Congress 2017 (Sep. 13))	Momoko Kono, Hiroe Kido, Sachiyo Soga	松本市内の森のようちえんの実践から、スピリチュアルな次元と子ども達の間で親密さが育まれることの環境教育的意義を考察した。
	2	"Greening JALT Events" 発表、PanSIG2017年大会、秋田国際大学	BRIERLEY MARK ALAN, ROLOFF ROTHMAN JENNIE	研究会のイベントや活動の環境負担を測定して、減少する方法についての発表。
	3	「熱帯雨林の英雄か国家の敵か：ブルーノ・マンサーとプナン人の闘い」『マレーシア研究』, (6):pp.86-97 2017(Oct.)	金沢 謙太郎	ブルーノ・マンサーがいなくなって16年余りが経過した。ブルーノ・マンサーとブルーノ・マンサー基金の活動歴に注目しながら、この間のプナン人の闘いと関連について論じた。
	4	Sedentalization and Nomadism among the Penan of Sarawak Senri Ethnological Studies, (95):pp.319-334 2017(Nov. 21)	Kentaro Kanazawa	定住化と遊動性について、マレーシア、サラワク州のプナン人の事例から比較検討している。

全学教育機構	5	Where does illegally logged timber come from and where does it go?: Environmental sociology of tropical timber trade 6th International Symposium on Environmental Sociology in East Asia (ISESA6, National Taiwan University, Taiwan) 2017 (Oct.)	Kentaro Kanazawa	違法伐採された木材を含む熱帯材貿易の事例において、その加害-被害の構造とそのメカニズムを追究することによって、受動的環境不正義を是正する方途を探った。
	6	「コモンズとコミュニティの悲劇：熱帯雨林の林産物採集をめぐる」 千葉大学教育学部井上孝夫研究室編『環境社会学研究別冊』, (3):pp.13-22 2018(Mar.)	金沢 謙太郎	熱帯雨林の先住民コミュニティにおける沈香などの林産物採集の事例から資源劣化の問題を考察した。
	7	スポーツ観戦環境の設計(Ⅱ)	橋本 純一	観戦空間編成をその歴史的経緯と具体例からグローバルなアプローチで検討し、望ましいスポーツ観戦環境構築の一助とした
	8	平成29年度信州大学新入生の体力傾向の分析：運動の実施状況の違いによる検討	廣野 準一, 速水 達也, 杉本 光公	本研究では、体力測定の結果を運動・スポーツの実施頻度別に検討を行った。その結果、以下のことが考えられた。1) 運動・スポーツの実施頻度は、形態的指標にはあまり影響を及ぼさない。2) 運動・スポーツの実施頻度が高いほど、機能的体力指標は高い値を示した。3) 特に全身持久力に関しては、運動・スポーツの実施頻度に伴って向上する可能性が示唆された。
医学部	1	子どもの環境と健康に関する全国調査（環境省 エコチル調査）	野見山哲生他	環境中にある化学物質が子どもの健康に影響を与えていないかを検証する疫学調査を長野県上伊那地域で実施している。
病附院属	1	ATP+ADP+AMP拭き取り検査（A3法）を用いた高頻度接触面における消毒薬を用いない環境清拭の評価	丸山貴美子 金井信一郎 城井三奈	病院内の病棟における高頻度接触面の拭き清掃において、消毒薬を用いなくても、A3値及び一般細菌数が減少し、効果がみられた。